

# 糖尿病用薬について

ひかりが丘薬局

H22. 6月号

糖尿病薬には内服薬・インスリン注射があります。

今月号は、内服薬について紹介します。

## ☆内服薬…大きく6種類に分かれる。

### ①スルホニルウレア系（SU系）…ヘキストラスチノン、ダオニール、グリミクロン、アマリールなど

機序	副作用
<ul style="list-style-type: none"><li>・インスリンを分泌している膵臓に作用して、インスリンがもっと出るように働きかけ血糖値を下げる薬。</li><li>・アマリール錠には、さらに筋肉での糖の利用を高めたり、肝臓で糖をつくるのを抑制することにより、インスリンの効きを良くし血糖値を下げる作用もある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・体重増加、肝機能障害などが起こることがある。</li></ul>

### ②速攻型インスリン分泌促進薬（フェニルアラニン誘導体）…スターシス、ファスティック、グルファストなど

機序	副作用
<ul style="list-style-type: none"><li>・SU剤と同じく膵臓に働きかけて食後早期にインスリン分泌を刺激して血糖を下げる薬。</li><li>・SU剤との違いは「効果が短い」、「食後服用だと速やかに吸収されない」点で食直前の服用が厳守。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・めったにないが、肝機能障害、心筋梗塞などが起こることがある。</li></ul>

### ③ビグアナイド系（BG系）…グリコラン、メルビン、メデットなど

機序	副作用
<ul style="list-style-type: none"><li>・膵臓の機能に関係なく、筋肉での糖の利用を高めたり、肝臓で糖をつくるのを抑制することにより、インスリンの効きを良くし、血糖値を下げる薬。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・まれに高齢者や肝・腎・心臓に機能障害があると、乳酸アシドーシスが起こることがある。 *乳酸アシドーシス…血液中に乳酸が増え過ぎ、血液が酸性になっている状態。 食欲不振、嘔吐、下痢、腹痛が起こり、進行すると過呼吸、脱水、低体温、昏睡に至る場合がある。</li></ul>

### ④α-グルコシダーゼ阻害薬…グルコバイ、セイブル、ベイスン、ボグリボースなど

機序	副作用
<ul style="list-style-type: none"><li>・インスリン分泌に関係せず、食事（糖質）の消化・吸収を遅らせ、食後の急激な血糖の上昇を抑える薬。その為、食直前の服用が厳守である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・おなら、腹部膨満感などが起こることがある。（1ヵ月で軽くなることが多い）</li></ul>

### ⑤インスリン抵抗性改善薬…アクトス

機序	副作用
・インスリンが結びつく部位の機能を改善して、血液中の糖の利用（代謝）を高め、血糖値を下げる薬。（効果が出るまで2ヵ月位かかることがある。）	・むくみ、急激な体重増加、肝機能障害などが起こることがある。

### ⑥糖尿病性末梢神経障害治療薬…キネダック、キネックスなど

機序	副作用
・しびれや麻痺を引き起こすソルビトールを神経に蓄積させないようにする。	・血小板減少、肝機能障害、尿赤褐色になる、などが起こることがある。

## —低血糖が起こった時の対応は？—

### <低血糖の主な症状>

60mg/dl 以下 … 空腹感、吐き気、イライラ感、振戦、あくび

50~30mg/dl … 動悸、冷汗、言語不明瞭、傾眠

20mg/dl 以下 … 昏睡、けいれん

糖尿病用薬の服用、使用によって、血糖が下がり過ぎて「低血糖」が起こることがある。

### <低血糖時の対処法>

砂糖 10~20g（角砂糖 3~4 個分やあめ玉）を摂り安静にする。（ジュースなど液体が口に入れやすい。）

ただし「 $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害薬」（グルコバイ、セイブル、ベイスン、ボグリボースなど）を服用している場合は、砂糖類（あめ玉、ジュースなど）ではなく ブドウ糖 10~15g を摂ることが大切。（砂糖の吸収を遅らせる薬の為。）

また、インスリン注射を使用している場合も、ブドウ糖を摂る方が改善が早い。

## —シックデイ（S i c k d a y）って、ご存知ですか？—

### シックデイとは…

発熱、嘔吐、下痢、食欲不振などにより、通常の食事が摂れなくなっている状態の事を言い、そのような時の為に、特別なルールがある。

### シックデイ・ルール

1. 温かく、安静にする。

とにかく温かくして寝ていることが基本。

2. 早めに主治医と連絡をとる。

日頃から、シックデイが起った時の対応について確認しておくことが大切。（薬の服用、インスリン注射は？→勝手に中止せず、医師に確認すること！！）

3. 食事・水分を摂る。

脱水状態にならないよう、水分（スポーツ飲料など電解質を含むもの）1ℓを目安に、できるだけ摂るように。うどん、おかゆ、みそ汁など、食べやすく消化の良い温かいものが良い。

血糖値のコントロールが出来ていると合併症の危険性が減ります。

自覚症状のないことも多い糖尿病ですが、食事、運動に気を付けながらお薬を指示通りに服用し、血糖をコントロールしましょう。

次回号は、インスリン注射についてです。